

創刊号!!

松山市・道後温泉



ほっと 笑媛

愛媛県グループホーム連絡協議会 会長挨拶



拝啓 師走の候、会員の皆様にはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。平素は当協会運営に関しまして、格別の高配を賜り厚くお礼申し上げます。また5月には認知症高齢者グループホーム全国大会「2005年フォーラムIN松山」に会員の皆様のご支援、御協力を頂き成功のうちに終了できましたこと誠にありがとうございました。

当協会は会の質及び会員の資質の向上を図りグループホームのあるべき姿、存在意義を広く啓発していくことを目的としています。そして上記の目的を推進していくために、講演会やセミナーの企画・運営 会員相互の情報交換や研修会を開催しております。

さて、今年度は、当協会の広報誌を発行する運びとなりました。会員皆様の情報の発信源となるようがんばっていきたいと思っています。

広報誌『ほっと笑媛』をどうぞよろしくお願いたします。

発行元：愛媛県グループホーム連絡協議会

住所：愛媛県松山市土居田町6 2 1 - 1

電話番&FAX：0 8 9 - 9 7 4 - 1 2 1 3

E mail：ehime.gh@aoros.ocn.ne.jp

発行日：平成17年12月1日

愛 媛県グループホーム連絡協議会広報誌「ほっと笑媛」の創刊に際しお祝いを申し上げます。また、愛媛県グループホーム連絡協議会並びに会員の皆様には、日頃から本県の保険福祉行政に関して、御理解と御協力を賜りまして、この場を借りまして御礼申し上げます。

愛媛県グループホーム連絡協議会は、県内のグループホーム関係者の自発的な団体として、認知症ケアや介護保険制度等の研修、会員相互の情報交換などさまざまな活動を実施され、県内グループホームの円滑な運営や質の向上に大きく寄与されておられます。

特にこの5月には、特定非営利活動法人 全国痴呆性高齢者グループホーム協会(現 特定非営利活動法人 全国認知症高齢者グループホーム協会)との共催で、「全国認知症高齢者グループホーム大会[2005年フォーラム in 松山]」を開催され、『夢』と『希望』、『明るい未来をともに』をテーマに全国の関係者ら約1,300人以上の参加の下、様々な講演や実践報告など盛大に行われ、実に有意義な大会であったと考えております。

さ て、グループホームが、介護保険のサービスとして提供されるようになって、5年を経過しておりますが、介護保険制度は、現在、大きな節目を迎えております。介護保険法は、施行後、5年をめぐりに見直されることとなっており、6月には、この見直し結果を盛り込んだ改正介護保険法が成立しております。

その主な見直しは、要支援者など介護の必要性が比較的軽度の高齢者の大幅な増加などに対応し、新予防給付の創設などを行う「予防重視型システムへの転換」、また、一人暮らし高齢者や認知症高齢者の増加に対応し、地域密着型サービスの創設などを行う「新たなサービス体系の確立」、さらには、利用者によるサービスの選択を通じた質の向上を行うための「サービスの質の確保・向上」などです。

今回の見直しにより、グループホームは、新たなサービス体系の中では、地域密着型サービスに含まれることとなり、指定や指導・監督の権限も県から市町に移ることとなります。地域密着型サービスは、要介護者の住み慣れた地域での生活を支えるため、身近な市町で提供されることが適当なサービス類型として、夜間対応型訪問介護や認知症対応型通所介護などを含めて創設されるものです。要介護高齢者の約半数には、認知症の影響が認められると言われておりますが、認知症高齢者ケアには、尊厳を保持し、環境の変化を避け、生活の継続性を尊重すること、また、安心感を大事にして、高齢者のペースで、心身の力を最大限に引き出して充実感のある暮らしを構築するといったことが重要で、認知症高齢者の生活そのものをケアとして組み立てることが必要であり、よりきめ細かな認知症高齢者へのサービス提供が期待されております。

一 方、サービスの質の確保・向上に関しましては、高齢者等が介護サービスを適正に選択するため介護サービス事業者の情報を標準化して公表を行う「介護サービス情報」の公表が実施されることとなっておりますが、グループホームにおいては、これに先駆けて、平成13年度からは自己評価が、平成14年度からは外部評価が実施されており、愛媛県グループホーム連絡協議会をはじめ関係者の熱心な取り組みにより順調に評価が進められております。

このように高齢者介護の分野におきまして、認知症高齢者が、自己の尊厳を保持し、穏やかな生活が送れるグループホームは、認知症高齢者ケアの切り札と言われており、認知症ケアに先進的に取り組んで来られたグループホームの推進を担われている皆様は、まさに高齢者介護の最前線でもあります。

今後、愛媛県グループホーム連絡協議会が中心となり、さらなる活発な活動が行われ、県民がお互いに助け合い、支え合う社会の実現に寄与されることを期待しています。

ココが良かった！全国大会

全国認知症高齢者グループホーム大会 2005年フォーラム in 松山 「夢」と「希望」、「明るい未来」をともに

平成17年5月21日から22日にかけて、松山で盛大に開催されました。全国各地から1350名の参加者が集い、県内からもグループホーム関係者をはじめたくさんの方々が参加されました。この大会を振り返って皆さんにアンケートを募集したところ、様々な感想がよせられたので紹介します。

1) スキルアップセミナー

- ・ 相手をよく知り、普通の生活環境を整える。
- ・ 認知症の特質を理解して生活を支援していくことの大切さを知った。
- ・ 生活支援のプロになれるように。
- ・ 介護の専門職であるスタッフの考え方、実践方法で利用者の生きる姿が築かれる。
- ・ 利用者一人一人の個性をふまえた生活支援と、利用者のニーズを継続的に進める必要性。
- ・ スタッフの意識改革と仕事に誇りを持つ。
- ・ 自主的に創意工夫と変革していく必要性。
- ・ スタッフ全員が同じ気持ちで取り組んでいかないと、利用者の安心、施設の発展にならない。
- ・ スタッフ間のコミュニケーションの大切さを知った。
- ・ 施設内の勉強会を行うことにより、スタッフ間のコミュニケーションが築ける。
- ・ 言葉も言い方によって受ける側の感じ方が違って来る。理解し合える為のコミュニケーションが大切。

2) 行政報告「介護保険の見直しについて」

- ・ 現場で働いていると行政への関心が無く、知らない事が多かった為、いい機会となった。
- ・ 介護保険制度全般における見直しは当然必要と思う。瀬接の給付の見直しに限ってみると、低所得者には配慮があるものの、見直しにより利用者の負担が増えることにより、本当に利用が必要な者が利用できにくくなるのではないかと。
- ・ 介護保険がスタートして5年、様々な問題点ができてきている事を知った。これからは予防重視のシステムへの転換、また認知症を理解してもらい地域でサービスを作る方向に動いていることを知った。

3) 特別講演「認知症高齢者の尊厳」堀田 力氏

- ・ どのような方法で「尊厳」を守ればよいのかわかりやすかった。
- ・ 「敬う」という気持ちを忘れてはいけないと思った。
- ・ 認知症について「一つの老いていく過程」であり、何ら変わったものではないという意見に深く共感した。
- ・ 認知症の方が、その人らしく生活を送れるような環境づくりを、町、社会全体で取り組んでいけるよう行動したいと思った。
- ・ 認知症の尊厳＝「自尊心を傷つけない、馴染んだ環境を変えない」こと。

4) 特別報告「災害をのりこえて」

- ・ 実際に体験された方々の報告に、人事ではなく身の引き締まる思いで聞かされた。
- ・ 今後の災害時の対策について、ホーム内や他ホームと話し合いができた。
- ・ もしもの時に備えて、グループホームでの連絡網や備蓄を整えた。
- ・ 明日は我が身というが、いつ災害がやってくるかわからない。普段の関係作りが大事だと痛感した。

5) 実践報告

- ・ お年寄り、その人を分る為に生活歴を知る努力や生きがいを見出す支援の報告に感動した。
- ・ 地域や家族から見守られ、入居者が認知症になるまでと同じように社会の中で地域の一人としてくらししていけるよう、支援していきたいと思った。
- ・ あたり前の生活を送る、当然のことではあるが難しい面もある。
- ・ スタッフのストレスに対する、ケアへの試みを実践するようになった。

6) シンポジウム「2005年グループホームの現状と提言」

- ・ 心に残った言葉、できる事を見つけ、できる事を引き出し、できる事を伸ばす。できる事で協力しあう。生き続ける、言い続ける、居続ける。そして明るく。心にとめてこれからもこの仕事に関わっていきたい。
- ・ グループホームスタッフの立場以外に、家族、外部評価調査員、行政の方等の様々な立場からの意見を聞いた事は、今後の介護の参考になった。
- ・ 地元を根を張り、自分らしく暮らし続ける事を支える真の地域密着のサービスにする為に、家族、地元の人々、行政がともに考え対話し、それぞれの立場で努力を重ねていくことが必要であると感じた。
- ・ 貴重な体験に基づいた暖かい報告に感動し、家族から地域へ支店を広めていくという考えに納得した。
- ・ グループホームにおいては、サービスの量の増加が著しく、小さな声や態度に見え隠れする声なき声の存在を知り、みんなで共有していく事が大切である。

グループホーム紹介

グループホームかざぐるま 医療法人 青峰会

グループホームかざぐるまは介護保険制度が始まる一年程前の平成11年1月に宇和海に面した静かで、まるでリゾートを思わせるような環境の良い伊方町（旧瀬戸町）大久の四つ浜中学校跡地で町からの委託を受けてスタートしました。

現在は医療法人青峰会くじらグループの一員として、入居者9名、スタッフ8名のこじんまりした特性を生かした家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりが、いつも笑顔が絶えないホーム作りに日々努めています。



同じ敷地内には地元の保育所があり、又近くには小学校もあり一年を通じて園児や生徒との交流が盛んに行なわれています。掘ったばかりのジャガイモを使ったカレーパーティー、夏の七夕会や年末の餅つき大会などがあり、子供たちと交わることで入居者の方々は自分の子供や孫を思い出したり、昔の子育てのころにタイムスリップしたりと、良い刺激となっています。お年寄りの素直な会話や笑顔、そして自然と元気を引き出してくれる子供たちがすぐそばにいる・・・という環境の良さも「グループホームかざぐるま」にとっての魅力の一つです。

佐田岬方面へドライブなどでお越しの際には是非お立ち寄り下さい。

グループホームむつみの家は、旧厚生省モデル事業として介護保険の施行前の平成8年11月11日に開設しました。

「のんびり」「たのしく」「いっしょに」を家訓（基本理念）に、入居者個々の尊厳を大切に個々の生活スタイルに合わせた生活の援助を行っており、立地する地域と常に接触し、自治会活動にも積極的に参加しています。



近隣には、保育園、小学校、中学校があり、隣接する道路は通学路となっており、常に子供の声の聞こえる学校区に立地し、所在地の自治会との連携も密に行われ、自治会行事にも積極的に参加しています。認知症高齢者が地域の中で普通に生活が出来るよう基本理念の基に生活しています。

グループホームむつみの家 医療法人 十全会

はいっ!
こちら事務局



久万 知枝



田淵 真希

愛媛県グループホーム連絡協議会の運営がスムーズに行われるよう事務局長 喜井茂雅を中心に私たち田淵真希と久万知枝でスクラムを組んでサポートしていきたいと頑張っています。仕事を通して毎日が勉強ですので皆様たちと一緒に成長していけたらと考えていますのでお気づきの点などありましたらご指導お願い致します。それから余談ですが・・・二人の共通のモットーは「楽しく生きる！！」のようです〈笑〉
それでは、今後ともよろしくお願い致します。

研修日程(平成17年度)

東 予		中 予	
1	9/13 新人研修及び必要性	1	7/19 グループホームの基本理念
2	11/7 チームワーク	2	8/23 グループホーム環境
3	2/13 介護保険改正	3	9/20 ケアサービス
南 予		4	10/18 地域や家族とのかかわり
1	7/20 新人研修	5	11/22 チームケア
2	9/5 ケアプラン	6	12/20 生活サポート
3	2/8 リーダーシップと人材育成	7	1/17 利用者同士の関係づくり
		8	2/21 認知症新しい展開

■□■ 編集後記 ■□■

今年も残すところあとわずかとなってまいりました。会員の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。愛媛県グループホーム連絡協議会が発足して5年が経ちました。会員も現在145施設となり、活動を続けています。今回広報誌を発行するにあたり、会員の皆様にご協力をいただき『ほっと笑媛』が生まれました。一步一步地道に成長し楽しく見ていただける広報誌を目指し、皆様のご意見ご感想などお待ちしております。

広報委員会